

平成 31 年度 東京都立杉並工業高等学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

本校は、専門的な技術・技能の確実な習得や資格取得・検定合格に向けた指導に力を入れ、危険物取扱者、電気工事士、陸上特殊無線技士などの国家試験のほか、計算技術検定、情報技術検定などの検定試験など、生徒の進路や希望を踏まえ、始業前に朝講習を実施するなどし、合格に向けて組織的・計画的に取り組んだ。また、2年生全員を対象に83事業所等で5日間のインターンシップを実施したり、学年段階に応じた各種進路ガイダンス等を行ったりし、勤労観・職業観の育成を図るとともに、進路選択に主体的に取り組む意欲を高めた。就職については、求人件数が1209件と増加し、1回目の就職試験の合格率も9月末の段階で74%と好調であり、その後も、生徒、教員ともに粘り強く取り組み、年内に就職希望者全員が内定を得ることができた。部活動は、生徒の約70%が部や同好会に所属し、運動部については、柔道部、サッカー部、バレーボール部、バスケットボール部、野球部、卓球部、バドミントン部などが活発に活動をしている。特に柔道部は難関である関東大会に出場するなど、都内国公立高校トップクラスを維持、バレー部、サッカー部、バスケ部、バドミントン部は都立工業高校トップレベルである。今後は、他部も大会等での実績を高めることが課題である。また、工業高校ならではの特色を生かした機械工作部、模型工作部、電子工作同好会なども、活動を通じて専門的な技能を高めている。特に電子工作部は、地域連携事業で小学校においてプログラミング実習を小学生対象に指導するなど本校のPRにも貢献した。入学者選抜については、推薦による選抜において、柔道、バレーボール、野球の種目で、文化・スポーツ等特別推薦を導入しているが、推薦に基づく選抜の応募倍率は0.86と大幅に低下した。一方、学力検査による選抜の第一次募集の倍率は0.36倍となり、第二次・三次募集となった。今年度も、私学助成政策等が大きく影響した。よって学校説明会などの広報活動について内容や方法をさらに工夫し、本校の工業高校としての特色を中学生やその保護者、地域等に一層周知していくことが次年度の喫緊の課題である。

2 具体的な取組・数値目標に対する成果と課題（教育活動及び重点目標への取組と自己評価）

	取組項目・数値目標	成果と課題
学 習 指 導	◇授業力の向上 ・若手教員を中心とした授業力向上に向けた研究協議9回以上 ・他教員の授業観察年2回以上	・授業力向上のための授業研究は、若手教員を中心に予定通り3回実施しでき、ベテラン教員等からの助言を得ることができた。 ・教員間による相互授業観察は、1回以上が45名、2回以上はその半数に留まった。
	◇学力の向上 ・学力向上研究校事業を活用し、該当生徒の学力向上率60%以上	・今年度、学力向上研究校通算4年目である。年2回基礎学力テストを実施した。2回目の学内偏差値が向上した生徒の割合はほぼ昨年と同様であった。 ・次年度は研究事業とせず、本校独自の「杉工版寺子屋」として、関係教職員の負担軽減も考慮しながら、学力向上に向けた個別指導を強化する。
	◇ものづくり人材育成プログラム事業の活用 ・工業3科講演会等1回以上	・新型コロナウイルス感染症に関する影響で事業中止となった。 ・次年度は工業3科が充実した企画ができるよう準備を進める。

	<p>◇成績優良者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100人以上 成績優良者：評定平均4.0以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績優良者は、1学年が32人、2学年が29人、3学年が36人、全体では97人であり、微増となった。 ・入学する生徒の基礎的学力が厳しい状況の中、「杉工版寺子屋」等も活用し、基礎・基本の確実な定着、授業規律の確立を組織的に行うことで改善を図っていきたい。
	<p>◇技能スタンダードに基づく資格取得等の指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家資格取得者数200名以上 ・認定資格取得者・検定合格者数300名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物取扱者、電気工事士などの国家資格取得者数は175名で、認定資格取得・検定合格者数は309名であった。資格や検定の合格率が向上できるように、講習会の参加率を高めるとともに、指導の改善を図ることが課題である。
生活指導・部活動	<p>◇遅刻者数の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆勤・精勤者を150名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業前の資格取得等の講習や各学年による学期ごとの遅刻指導等を実施していることにより、1日当たり、1学級当たりの遅刻者数は1.1人程度であり、遅刻者が少ない良好な状況が維持できている。 ・皆勤者及び、精勤者は計137名であった。
	<p>◇部活動参加生徒の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では運動部12、文化部11が設置されている。部活動に参加している生徒の割合は、全体では70%であり、目標を下回った。部活動の振興に一層取り組んでいく。
	<p>◇部活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合等の実績前年度以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都教育委員会から部活動振興予算の重点配付を受け、運動部においては技術指導の充実や大会実績の向上、文化部においても活動内容の充実や発表会等での実績の向上を目指して取り組んだ。 ・柔道部、卓球部、サッカー部、バレー部、バスケ部などが都内大会等で実力を高めた。柔道部は、関東大会進出を果たし都立高校トップレベルである。文化部は、電子工作部、写真部が様々な表彰を受け活発化している。 ・入学者選抜の推薦の基づく選抜で、柔道、バレーボール、野球の種目で、文化・スポーツ等特別推薦を導入しているので、さらに部活動の充実を図る。
	<p>◇教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの連携による校内研修2回以上 ・学校いじめ対策委員会月2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる校内研修を1回実施した。 ・カウンセリング委員会は、適宜開催している。 ・学校いじめ対策委員会は、毎週実施し、生徒情報共有を徹底した。 ・年度当初に、新入生に対して、スクールカウンセラーが全員に面接を行い、生徒にとって相談しやすい環境づくりに努めた。
	<p>◇規範意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力行為、いじめゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい月間を中心に、年3回アンケートを実施した。また集会等での指導、カウンセリング委員会等で対応するなど、いじめの未然防止に取り組んだ。 ・いじめに関連する問題行動等は厳しく対応した、またSNSの使用法については適宜注意喚起を行った。

進路指導	<p>◇キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 100% (フリーター・ゼロ) ・インターンシップを 2 学年生徒全員が実施 ・企業や上級学校訪問を最低 1 回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、適性検査、SPI 対策、ビジネスマナー教室、進路体験講話など、学年進行に応じて、計画的にキャリア教育や進路指導を行い、就職希望者の内定率は 100%であった。 ・第 2 学年生徒全員が、都内 73 事業所で 5 日間のインターンシップを行い、職業観等の意識の醸成を図った。また 3 月にインターンシップ体験発表会を実施し、1 学年生徒への進路指導を、中・長期的な視点に立ち計画的に行った。 ・全教員が企業訪問を 1 ヶ所以上実施した。
	<p>◇就職指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者の内定率 100% ・初回の就職試験の合格率 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の就職試験の合格率は 74%であったが、年度内には就職希望者の内定率 100%を達成した。生徒が自己の適性を踏まえ、主体的に進路を選択できるようキャリア教育の充実を一層図ることが課題である。
	<p>◇進学指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者の大学・専門学校進学率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦、AO 入試等を中心に、12 人が大学に合格し、専門学校等は 37 名が合格した。現役合格を果たすための学力向上に加え、進学先の授業等に対応できる学力の定着を図ることが課題である。
特別活動・環境保全	<p>◇奉仕活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間と社会」に関わる奉仕体験活動 3 回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区クリーン大作戦 (年 1 回)、善福寺公園清掃活動 (年 1 回)、救命救急講習 (年 1 回)、計 3 回実施し、目標を達成した。
	<p>◇地域連携の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携に関わる体験活動 3 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並区立井草中学校の生徒に対する、本校の特色である各科のものづくり体験授業は日程調整がつかず未実施となった。 ・本校電子科生徒が課題研究授業を活用し、三谷小学校及び桃井第四小学校との連携事業において、プログラミング授業を実施した。
学校運営・組織体制	<p>◇本校の魅力伝え、入学希望者を増加させる活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、見学会参加者数延べ 600 名以上 ・全教員による中学校訪問数 80 校以上 ・中学校への出前授業 3 回以上 ・杉並区内小・中連携協議会への参加 1 回以上 ・推薦に基づく入学者選抜応募倍率 1.5 倍以上 ・学力検査に基づく入学者選抜の応募倍率 1.1 倍以上 ・学校 HP の年 100 回以上の更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の学校見学会等には生徒・保護者総計 520 名が参加、さらに 1 月・2 月に個別相談会を開催し、昨年比をこえた広報活動を行ったが、私学助成等の影響もあり、入選 2 次募集回避とはならなかった。 ・中学校及び塾訪問は教員が 130 校、管理職が 50 校実施した。 ・中学校への出前授業は、電子科を中心に 3 校行った。 ・杉並区内の小・中連携協議会には 2 回参加でき、その関連で杉並区内中学校、進路担当者連絡会を実施できた。 ・推薦に基づく入学者選抜の応募倍率は、全体では 0.86 倍と大幅低下となった。 ・学力検査に基づく入学者選抜の最終応募倍率は、全体で 0.36 倍でとなり、目標の 1.1 倍は達成できず二・三次募集となった。 ・学校 HP はリニューアルの遅れで情報発信が不十分に終わった。

学 校 運 営 ・ 組 織 体 制	◇ものづくりの面白さを子供たちに伝える活動の充実 ・ものづくり教室参加者数 100 名以上	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくどきどき工作スタジオの児童・生徒の参加者数は大幅減少となった。次年度は若干システムを変更になるため、着実に参加数を増加させたい。 ・近隣の小・中学校と地域の連携を充実させ、地域連絡協議会が主催する子供地域活動促進事業等を通じて、ものづくり体験を実施し、約 200 名の児童に、ものづくりの面白さを体験させた。 ・本校を会場に「パフォーマンスロボット大会」開催し、近隣地小学生、保護者に好評を得た。
	◇家庭との連携、校内体制の充実 ・中途退学者数 15 名以下（転学者を除く。） ・体罰ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者は、1 学年 12 名、2 学年 5 名、3 学年 1 名、計 18 名であった。教育相談の充実や問題行動の未然防止に取り組んだが、特に 1 学年の中途退学者が増加した。今後も、きめ細かな指導により、中途退学の防止に努める。 ・体罰については、校内研修を実施したほか、全教職員で防止に取り組み 事故ゼロを達成した。
	◇組織的な取組の推進 ・学校運営連絡協議会の学校評価満足度（100%）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営連絡協議会の協議委員のうち回答が得られた協議委員全員から、「学校がよくなった」ということについて肯定的な評価を得た。 ・本校に入学してよかった割合は、生徒約 77%、保護者の約 90%であった。引き続き満足度 100%を目指す学校経営を推進する。

3 次年度以降の課題と対応策について

- (1) 入試応募倍率の大幅低下を踏まえると、本校の工業高校としての魅力発信が喫緊の課題である。今年度は、これまで本校 HP におけるトピックス、ツイッターの更新、正門等における「杉工のぼり」の設置、塾、中学校教員対象の学校見学会の企画・開催、工業科教員による出前授業に加え、杉並区教育委員会とも連携し、杉並区内中学校進路担当者連絡会を開催する等、積極的に広報活動を行った。倍率低下の一因として私学助成等の外部要因も影響は大と考える。よって今年度以上の情報発信の改善・工夫、学校説明会等の内容の充実を図るとともに、日頃の生徒の身近な学校生活や本校の強みをアピールする等、募集対策を充実させる必要がある。
- (2) 基礎学力向上は大きな課題である。次年度は「杉工版寺子屋」を導入し、個別指導を充実させることで基礎学力向上の取り組みを強化していきたい。
- (3) 資格取得を一層推進し、全校体制で受験の奨励や指導を行い、その成果を募集対策においても効果的に PR していく。
- (4) 工業 3 科の魅力発信等について、新学習指導要領を踏まえた教育課程の最終検討を行い、募集対策に向けた取組と連動させる。